

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		フレンスポート ふなおか		公表日		令和7年 3月 14日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		5	1
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		配置基準を遵守し、さらにお子様への個別対応のため加配配置し対応している。		
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		それぞれのお子様の障がい特性や特に過ごす場への配慮として、構造化(手続き・時間・空間…等)を取り入れ工夫を施すよう努めている。また設計当初よりバリアフリーに配慮した設計で建物は建てられ、さらにそれぞれお子様のご利用に不自由・不便が出てくることがないように、月一のチェック・改良を行い安全対策をしてくている。	療育環境によってもたらされるお子様への影響は、良し悪し関わらず大きいものがあると我々は認識し、今後においても成長とともに変化するお子様方々の様子にも対応していけるように支援環境については必要に応じて柔軟に変化させていく。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		毎日、全館にわたっての清掃・備品補充・消毒を対応。また空間においても全館の常時換気・空調の温度管理に気をつけながら対応している。その他、お子様のストレスとなりうる事に気をつけ、お子様の皆様が「(当事業所に) 行きたい! (当事業所で) ~したい!」と思っただけの事を第一に考えている。		
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		事業所館内・各居室すべての場所をそれぞれお子様が使用出来るようにしている。対応できているが、もう少し部屋数があると良い。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。		6		全員で計画し実施したことへの振り返りは全職員が参加する支援会議において振り返り、次の計画への目標設定として活用している。(個別支援計画作成のプロセスと同様)	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		全体ミーティングや自己評価総括を作成する場において、保護者の意向等を全職員で把握し、皆さんからの声を反映した支援体制づくりを行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		随時、全体ミーティングなどの場で、全職員が参加して様々な意見交換する場を設けており、職員全員で検討し、まとまったより良い業務改善案についてはすぐに業務に取り入れ実行するようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。			6	現在において外部評価は行っていない。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6		実施している。それを支援会議を通して職員間で共有している。	
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		令和6年9月13日付けで作成し、当事業所ホームページにて公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		6		日々のお子様の様子、ご家族の話聞いた上で、今必要な支援やスキルは何なのかを考え、計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6		定期的に支援会議を実施し、お子さま各々の支援について話し合いを実施している。支援会議以外でも必要時その都度支援について話し合いを実施している。	

適切な支援の提供	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6		計画内容について職員間で共有し、日々の支援に当たっている。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	6		事業所オリジナルのアセスメントツールを使用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6		日々のお子様の様子、ご家族からの話を踏まえてお子様自身の課題、身に付けるべきスキルについて分析し、支援内容について設定している。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6		活動内容について個人の主観に偏らないようチームで相談しながら実施している。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6		お子様が飽きないように設定活動を提供している。	
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		個別、集団活動でのお子様それぞれの課題についてを計画に盛り込み、課題解決に向けた支援提供に努めている。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		当事業所は登校前支援として日中一時支援を行っているため、それを利用している児童の朝の様子について変わったことがあれば情報共有を行い、放課後の支援に向けて準備を行っている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6		お子様の利用終了時間が営業終了時間間近になると打ち合わせの時間は短くなってしまいが、その分翌日に情報共有をするなどの工夫をしている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6		日々のお子様の様子について、特に重要なケースについては詳しく記載するように努めている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		半年に一度、見直しを行っている。	
関係機関や保護者との	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	6		実施している。特に創作活動については毎月必ず実施している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		絵カードなどのツールを使用し、お子様自身の自発を促し、やりたいことを選択し活動していただいている。	
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		基本的にお子様の会議については当事業所の児発管が常勤の児童指導員が出席している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6		必要時に応じ五泉市や医療機関、学校と連携し、担当者会議などに参加してお子様にとってより良い支援方法を考えている。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		情報共有が必要なときはその都度密に連絡を取り合っている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	6		サービス利用前には保育所等に見学に出向き、お子様の様子の確認と、担当の先生方から園での様子を聞いたり、利用初日からしっかり対応できるように努めている。	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供しているか。	6		サービス担当者会議に出席したり、担当相談員を通して支援内容について情報提供している。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。		6		現在、地域には児童発達支援センターの設置検討をしている段階であり、この先に設置された場合には左記のような機会を積極的に受け入れていく。

連携	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他の子どもと活動する機会があるか。		6	・散歩などの外活動（公園などの目的地）においては地域の子供達と交流することが出来ていた。 ・健常児との交流はないが他放デイ事業所との交流は年に数回行っている。	他放デイ事業所との交流で合同行事（遊具施設）に参加しており、今後においてはさらに他児童との交流を目的とした活動計画を企画し実行するようにしていきたい。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6	五泉市障がい者総合支援協議会 子ども部会に参加している。	
	34	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。		6	お迎えの際などその日のお子様の様子についてお伝えし、共通理解に努めている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		6	外部からの保護者向けの研修については玄関入り口に掲示して案内している。	家族が参加できる研修については事業所では実施していない。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。		6	契約時、各ご家庭に説明している。報酬改定が行われた際など加算や利用料の変更に関することについては随時保護者へ説明し確認いただいている。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。		6	サービス計画を保護者に説明する際、ご家族の意向を必ず聞くようにしている。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。		6	各ご家庭に時間を作っていただき、事業所にて場所を設け、個別支援計画の説明と確認を行っている。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。		6	送迎の際の時間を利用してお聞きすることもあれば、必要に応じて面談の機会を設けて保護者からの相談に対応している。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6		実施してはいるが、ほとんどの児童が同じ学校であり、それぞれ保護者同士で面識・交流がある。また全体行事の盆踊り大会などではご家族でお越しいただくこともあり、交流されていた。必要ないのご意見をいただいたこともあるが、ご家族同士・ご兄弟同士の交流についてはお子様・ご家族支援において大切な一面として各ご家族のニーズを聞きながら機会をうかがっていく。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。		6	苦情受付窓口と苦情解決責任者の設置をして対応している。直接言いにくい事のために意見箱も設置している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。		6	毎月お便りを作成し、配布している。行事についてはその都度、各ご家庭に案内を配布している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。		6	個人情報の取り扱いについては十分注意して日々の業務に当たっている。写真の掲載等については年度初めに保護者様から使用可否のサインをいただいている。その上で、ご家族向けの月一発行のお便りでは利用児童や保護者から写真掲載についての要望を随時受けて対応するようにし、それ以外の使用で実際に写真等を使用する場合は、掲載する内容を児童本人と保護者に伝えて了解をいただくようにしている。	
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。		6	お子様それぞれに伝わりやすいことを第一に（言葉の他、構造化、ジェスチャー、筆記…等）、丁寧に、ゆっくりと伝えることを心掛け、配慮している。	お子様のコミュニケーションにおけるのスキルアップに応じて伝え方を変化させて、よりスキルの向上をねらって
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		6	当事業所の全体行事として、7月に地域合同防災訓練、8月に盆踊り大会、1月にさいの神など定期的な交流の機会を設けている。	
46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。		6	左記の各種マニュアルはすべて揃っており、全職員に周知されている。また安全点検・各種BCPの年間計画に沿って訓練を実施している。	今後も訓練を重ね、全職員がマニュアルを参考にリスク回避の行動が迅速にとれるようにし、マニュアルも随時更新していく。	

非常時等の対応	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		上記と重なるが当事業所で策定してある各種BCPに加え安全計画の年間計画等に沿った訓練を実施している。	各種BCPと安全計画の定期的な内容更新と共に訓練内容の更新をし、職員はそれに対応していく。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	6		契約時や個別支援計画説明の際にお子様の服薬状況や健康状態等について確認し、また保護者・学校と利用当日の様子についても随時確認しながら支援提供している。	お子様の健康状態に関することを利用の前に随時確認していけるよう体制（医療に関する情報共有）を連絡もれないよう注意していく。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		今現在食物アレルギーのあるお子様は利用していないが、契約時にアレルギーの有無を確認しており、対応が必要な場合については保護者とやりとりし、加えて医師の指示書に基づいた対応をしていく。	利用中のお子様について、成長とともに体質が変わってなどのアレルギー発症については随時、利用の前に確認できるよう体制（保護者との医療に関する情報共有）を整えていく。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6		安全計画は策定しており、その年間スケジュールに沿ってお子様の活動場所等の安全点検を実施ししながらより安全な支援環境を整備しながら運営している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	6		毎月の避難訓練の様子をお便り等で周知している。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		定期的な支援会議を行い、その中でヒヤリハットの検証と、リスク回避の対応について検討し今後の対応策を実施している。	事故にならなくてよかったではなく、事故回避のためのヒントをヒヤリハットから学び、安全管理の強化により努めていくという事業所の姿勢を保っていく必要がある。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		定期開催の関係施設部署全体での虐待防止委員会への参加に加え、虐待防止について支援会議の中で定期的に話し合いをし、職員全員の意識向上に努めている。	全職員の虐待防止の意識・緊張感が下がっていかないように、定期的に虐待について事業所全体で考える機会を設けていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		6		今までも現在においても身体拘束が必要なお子様は利用していないが、今後利用することがあれば当事業所が行う身体拘束について利用側に十分に説明を行い、個別支援計画に記載するなどして対応していく。	今後、身体拘束が必要なお子様が利用することになった場合は、当事業所運営組織が管轄する身体拘束適正化委員会を通して利用側との適正な手続きを行い支援を対応。また経過を観察し段階を経ながら身体拘束を解除していく方向で個別支援計画を更新・作成していく。